榧ノ木

第廿参号
令和3年10月10日発行
青壮年部女性部広報
題字：大内翠峰

青壮年部・女性部
新会長に早坂妙子さん

就任のあいさつ

花園会・青壮年部・女性部会長
早坂　妙子

この度、コロナ禍の中、総会の役員改選において、会長に選任頂き、事の重大さを痛感しているところです。

発足から、幹事、副会長と数々の体験をさせて頂きました。これを基礎として、会員、皆様方の御協力を頂き、青壮年部・女性部の発展に、心機一転取り組んでいく考えでおります。

また、2年に亘り新型コロナウイルスが流行し、ワクチン接種も進んでいますが、まだ道半ばといった状態であります。

今後の活動ではコロナ対策を徹底し、皆様の健康を守り、御住職、副住職の御指導を頂き、年間行事を実施できますよう努めてまいります。ひとりでも多くの方々にご参加頂き、人生の勉強をさせて頂きます。私達も楽しんで出来たらと思っています。

今後とも御指導と御協力をお願い致しまして、就任の挨拶とさせて頂きます。

子育て水子地蔵祭・降誕会（ごうたんえ）

お釈迦様の誕生を祝い甘茶をかけます

参列者と共に子育て水子地蔵に合掌

布教師　福島県永京寺住職　大野泰明師の法話

法要後、樹木葬（岫雲（しゅううん）の森）にて和太鼓コンサートを開催

エエイ！　これでもか！

雨ニモ負ケズ

雨を吹き飛ばせ！

太皷から水しぶきが!?

雨ニモ負ケズ　コロナにも負けず

大郷町　東光寺住職　高橋　幸也

令和3年5月23日、禅興寺様で開催されました子育て水子地蔵祭りにて、和太鼓の演奏をさせていただきました。当日は朝から小雨が降ったりやんだり、はっきりとしない空模様でした。

太鼓を打ったことのない方でも濡らしてはいけないということは何となくご存知の方も多いかと思います。実を言うと、太鼓は少しくらい濡れただけでは大した被害はありません。すぐに拭いて乾かせば何とかなります。濡れてふやけた革を打ち込んで伸ばし切ってしまうことが致命傷となります。ですので「太鼓が濡れたら打ってはいけない」これが鉄則になります。

さて、実際の演奏はと言いますと、演奏開始とほぼ同時に小雨がちらつき始めます。昨年から続くコロナ禍でお祭りやイベントが無くなり、演奏機会がほぼ無くなった我々にとっても貴重な演奏機会でしたし、お客さんにとっても久しぶりに生の楽器の音と演奏を楽しんで頂く機会です。できる限り演奏して楽しんでいただこうと、止んでくれることを祈りながら曲を進めます。

しかし、思いとは裏腹にどんどん雨脚は強まります。終いには本降りとなりまして演奏中断となりました。打っている打面がしっかりと浸水して色が変わってきているのが分かります。もう太鼓が限界でした。

自然というのは思い通りにはいかないなと、新緑の七ツ森で大自然に打ち負かされた演奏となりました。

沢山の皆様に御心配されました太鼓たちですが、二十四時間エアコンの効いた部屋で一週間以上乾燥させ、無事に使えるようになりましたのでご安心ください。

次回は天気を気にせず心から演奏を楽しんで頂ける機会をご用意できればと願っております。

盂蘭盆施餓鬼会・新亡供養

禅興寺　副住職　梅澤　竜潭

毎年「山の日」に行われる禅興寺盂蘭盆施餓鬼会。今年は東京オリンピック開催の影響で、例年より少し早い8月8日に厳修致しました。当日の天気予報は曇時々雨。今年の行事は天候に恵まれないことが多かった為、小雨交じりの午前の準備中には、天気と同じ、どんよりとした気持ちでおりました。

ましして昨今の社会情勢を思えば、開催自体を不安に感じていた私の心情を表しているかのような空模様でした。

しかし、正午過ぎになると晴れ間が見え始め、8月とは思えないような爽やかな気候となりました。そして、受付所で役員の皆様が丁寧に消毒検温を案内している姿、参列者の皆様が暑くてもマスクをきちんと付け、静かに開式を待っている姿を見て、私の不安な気持ちは、無事にこの行事をやり遂げなければならないという使命感に変わっていました。

約一時間の法要を終えたとき、いつにも増して達成感と感謝の気持ちが湧き上がってきました。

大人数が集まることが難しくなった昨今、一人一人の注意と他者への思いやりが、一つの行事を成し遂げたという事実。「たまたま何事も無かっただけだ」というご指摘はごもっともだと思います。しかし、盂蘭盆施餓鬼会で見た景色の中にこそ、新しい時代への希望の片鱗があったと、私は一人の宗教者として強く感じるのです。まだまだ我慢の日々は続きますが、一つ一つの希望を紡いで乗り越えていけると信じております。

本堂内は僧侶のみで厳修

マスク着用の行道

暑い中、マスク着用お疲れさまでした。

「奇跡の藤―随処に主となれば立処皆真なり」

禅興寺　住職　梅澤　徹玄

東北百景に数えられる七ツ森は、ちいさな小山が七つ連なる景勝地だ。その湧き水が渓流となり境内を流れ、やがて松島湾に灌ぐ。その渓流の沿岸に巨大な岩盤が聳え立っている。渓流が正面に当たり、左に大きく湾曲する前面は水が淀む渕となっている。

ある日その傍らで作務（さむ＝作業）をしていると、岸壁の中程に何やら柔らかい新緑が目に入ってきた。突然岩から生えてきた印象だ。近づいてよく目を凝らして見ると藤の蔓が、岩の割れ目から芽吹いているではないか！一昨年の秋に水害をもたらした台風19号の増水で、土石流が押し寄せた。その際藤の種子が岩盤の割れ目に入り込んだ。春を待って芽吹いた、若い蔓が、たまたま岩盤に引っかかっていた枯れ枝を、新たないのちの支えにしようと必死にしがみついているのだった。

何という生命力！こころの底で快哉を叫んだ。「奇跡の藤」という言葉が咄嗟に思い浮かんで心に刻まれた。

岸壁に生きる奇跡の藤

逆境にも負けずたくましく育つ

あれから1年。柔らかな緑色の蔓はすっかり貫録を増し、皺皮の茶色の蔓は、もう枯れ枝を必要とせず、青々とした新葉を茂らせ、風にそよがせている。

臨済宗の宗祖臨済義玄禅師の言行録「臨済録」の一節に「随処作主　立処皆真（随処に主となれば　立処皆真なり）」がある。それぞれの置かれた立場や環境で、それぞれの為すべき務めを精一杯果たせば、必ず真価を発揮することができると喝破（かっぱ）する。

私たちはともすれば、不遇や環境を嘆き、できない言い訳を他の責任にして、不満ばかりを募らせる。その瞬間、こころも、行動も一ケ所に淀んでしまい、同じところをぐるぐると迷いの渦に沈んで行き先を見失ってしまいがちである。先ずは、自分の置かれた環境、条件、境遇をありのままに受け入れる。

そうしていったん立ち止まり、今、此の瞬間、自分にできること、手を付けられることは何かをしっかりと見据えてみる。そこを手掛かりとして一歩を踏み出し、後は結果を顧みず、その瞬間その瞬間にすべてを投げ出して、誠心誠意、弛（たゆ）まず牛歩の如く取り組んでゆく。いつか気が付けば、思いもかけない成果を手にしていた！との真実を伝えてくれる一語であろう。しかし、それは、藤の種子だけの力ではない。岩の隙間に挟まったとの因（出発点）に、厳しい冬を乗り越え、春の暖気と陽光、川辺の湿気と慈雨が水分を与え、新緑の時節到来を待って（縁＝要素）ようやく実を結んだのだ。

懸命に努力する姿は美しい。その真実の姿は人の心を打つ。そしてそこには必ず共感し、応援するものが出てくる。因縁仮和合（いんねんけわごう）の理（ことわり）である。しかし奇跡は一瞬であり、その姿をとどめることはかなわない。留まることなく、果てしない歩みと努力を重ねて、変化し続けるのみである。合掌

〔臨黄ネット法話（原文）＆妙心寺公式サイト　令和3年6月号〕

行事への出欠確認は、欠席の場合でも班長さんまでご連絡ください。

コラム　色即是空（しきそくぜくう）

仏像と榧の木（仏教豆知識）

反町中　佐藤彰

日本で最初の本格的な仏教寺院である奈良の飛鳥寺の飛鳥大仏（釈迦如来坐像・六〇九年作）は、鋳造年のわかるものとして、日本最古級の鋳造佛です。

中国唐で当時は仏像は白檀（びゃくだん）もしくは柏樹（はくじゅ）で作るのが通例でした。飛鳥時代の日本にはその樹種が無く、清々しい香りのクスノキを使っていました。

渡来僧の鑑真が日本に仏像職人を連れてきてからは、榧の木が使われるようになり、そして桧も多く使われています。お寺の境内や墓地に榧の木が植えられているのは関連性があるのかもしれませんね？

（注）本誌『榧ノ木』は、本堂裏にそびえる樹齢四百余年の榧の木に由来しています。

榧は針葉が左右に開くことから、門戸を開くに通じます。

禅興寺の門戸は、全ての人に開かれています。（住職）

日本で初めて茅を染めました！

薄屋茅功（すきやかやこう）

榧ノ木18号でご紹介した禅興寺山門を葺き替えてくれた茅葺き職人小林功氏が栗原市「風の沢ミュージアム」で5月15・16日に茅作品の個展を開きました。

写真は、日本で初めて茅を染色した作品です。

今後の行事予定

◎12月11日（土）午後2時
大般若祈祷・成道会

◎2月　日時未定
涅槃会

◎3月28日（月）午後4時
境内・墓地清掃

※その他行事はコロナ感染状況を踏まえて予定いたします。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中にあっても自然の営みは、淡々と続いています。

皆様にはゆっくりと花を愛でる季節を迎えられますようご自愛ください。

広報部
部　長　相澤敏晴
副部長　佐藤彰
部　員　早坂妙子　小川弘吉

発行
禅興寺花園会青壮年部・女性部　広報部
〒九八一-三六二五
宮城県黒川郡大和町吉田字長福寺一
電話番号　〇二二-三四五-二〇六三

※樹木葬（臥雲の森・岫雲の森）の紅葉は10月下旬～11月初旬が見頃予定です。紅葉狩りにどうぞ。